



来場者総数 137名
個別相談件数 37件
視察 1件



【個別相談内容】 抜粋

- ①サ高住職員、手すりを取り付けられない環境で使える置くタイプの手すりはあるか。
- ②家族、聞こえづらい人にあまり大きな声ではなくうまく伝えられる方法はないか。
- ③家族、頭を壁などにぶつけてしまうので保護できるものを探している。保護帽はかぶっているが風が入らずあせもができて困っている。
- ④手の力が弱く箸が使いにくくなったのでスプーンを使いたいが、使いやすい良いものはあるか。
- ⑤難病で言葉が出にくくなってきている コミュニケーション手段として使える用具について知りたい。
- ⑥腰痛のため起き上がりが大変なので介護ベッドを試してみたい。
- ⑦家族、歩行に不安があるにも関わらずベッドから一人で起きて車いすに移ってしまう。トイレに行くときに転んでいるので歩行車が見たい。
- ⑧家族、手術を受け入院中 退院に向けて福祉用具を見たい。
- ⑨施設職員、床に敷くマットタイプでベッドから離れた際に知らせるものを使っているが間に合わない。早く動きに気付けるものがあるか。
- ⑩親戚、施設入所中。利用料がかさみ家族が大変なので在宅介護について検討中。どんなものがあれば生活できるか。

研修報告

- リフトリーダー研修（日本アビリティーズ協会と共催・群馬県高崎市）
- 「福祉用具を活用した安全で質の高いケア」（東京都保健福祉財団）
- 福祉用具プランナー研修「住宅改造」（フランスベッド財団・東京都小平市）
- イベント参加
- じぶん×未来フェア（宇都宮市主催・県内の高校生が参加）

「栃木県介護生産性向上総合相談センター」が開設されました

7月18日、県保健福祉部長臨席のもと開所式を行いました。

県は18日、見守り機能や入浴介護機器などの介護テクノロジーに関する施設側の相談を円滑にするワンストップ窓口「県介護生産性向上総合相談センター」を宇都宮市若草1-1-1のとちぎ福祉プラザ内に開設した。介護テクノロジーの導入に向け施設への研修支援や情報発信を強化し、職員の負担軽減や介護の効率化につなげる。

介護テクノロジー導入へ 県、施設向け相談窓口開設

県内外の支援機関とも連携し、介護現場の課題解決につなげる。

県は18日、見守り機能や入浴介護機器などの介護テクノロジーに関する施設側の相談を円滑にするワンストップ窓口「県介護生産性向上総合相談センター」を宇都宮市若草1-1-1のとちぎ福祉プラザ内に開設した。介護テクノロジーの導入に向け施設への研修支援や情報発信を強化し、職員の負担軽減や介護の効率化につなげる。

県は18日、見守り機能や入浴介護機器などの介護テクノロジーに関する施設側の相談を円滑にするワンストップ窓口「県介護生産性向上総合相談センター」を宇都宮市若草1-1-1のとちぎ福祉プラザ内に開設した。介護テクノロジーの導入に向け施設への研修支援や情報発信を強化し、職員の負担軽減や介護の効率化につなげる。

県は18日、見守り機能や入浴介護機器などの介護テクノロジーに関する施設側の相談を円滑にするワンストップ窓口「県介護生産性向上総合相談センター」を宇都宮市若草1-1-1のとちぎ福祉プラザ内に開設した。介護テクノロジーの導入に向け施設への研修支援や情報発信を強化し、職員の負担軽減や介護の効率化につなげる。

下野新聞のほか、NHK（宇都宮）、とちぎテレビにも報道していただきました。

「介護テクノロジー活用支援セミナー」開催



7月22日、介護テクノロジー活用支援セミナーを実施しました。この研修への参加は県の補助金申請の必須要件にもなっており、県庁研修館での参加約30名のほか、オンラインでは約250名の参加がありました。県およびセンターのHPよりアーカイブ動画を視聴できます。



Xのアカウントを開設しました。@kaisapotochigi
フォローよろしくお願いいたします！